

Ⅲ 年報

(2005年4月～2006年3月)

日本語教育担当教員は3名の専任教員、及び4名の非常勤講師（北岡幹子、高橋美和子、田中久美子、福岡理恵子）である。

主な教材：『初級日本語』（凡人社）、『ニューアプローチ中級日本語基礎編改訂版』（日本語研究社）、『毎日の聞きとり 50日 初級編』（凡人社）、『ニュースで学ぶ日本語パートII』（三井豊子）、『ヤンさんと日本の人々 初級』（国際交流基金企画）、『Basic Kanji Book 基本漢字 500 (Vol.1、Vol.2)』（凡人社）、『J-Bridge』（凡人社）、『わくわく文法リスニング 99』（凡人社）、『毎日の聞きとり 50日 中級編』（凡人社）

第18期生名簿

氏名	性別	国籍	修了後配置先
Stoyanov, Enyu Stoyanov	M	ブルガリア	商学研究科
Nontapan, Siwapa	F	タイ	商学研究科
Piyapisut, Suwana	F	タイ	商学研究科
Sriviboon, Anupong	M	タイ	商学研究科
Hejairi, Hasan Ahmed	M	バーレーン	経済学研究科
Dartanto, Teguh	M	インドネシア	経済学研究科
Puhr, Raphael Serge	M	スイス	経済学研究科
Lorenz, Tatjana*	F	ドイツ	商学研究科
Melse, Alarik*	M	オランダ	経済学部
Zulueta, Johanna*	F	フィリピン	社会学部
Swasono, Medwi**	M	インドネシア	国際企業戦略研究科

* 交流学生

1. 日本語教育部門

第 18 期時間割

		I	II	III	IV
月	A	初級文型・語彙 (田中)	初級文型・語彙 (田中)	初級漢字 (福岡)	初級文型復習・聴解 (福岡)
	B	----	初中級読解・漢字 (福岡)	----	----
火	A	初級文型・語彙 (北岡)	初級文型・語彙 (北岡)	初級漢字 (高橋)	初級文型復習・聴解 (高橋)
	B	----	初中級聴解 (福岡)	日本語選択・文章表現 I (三枝)	日本語選択：漢字 CAI (金井)
水	A	初級会話 (石黒)	初級作文 (石黒)		—
	B	初中級文型 (鶴田)	----	日本語選択・口頭表現 I (中川)	日本語選択・中級読解 I (梅岡)
	C	----	中級・翻訳による作文 (鶴田)	----	----
木	A	初級文型・語彙 (北岡)	初級文型・語彙 (北岡)	異文化体験ゼミナール (柘植)	
	B				
金	A	初級文型・語彙 (田中)	初級文型・語彙 (田中)	初級漢字 (高橋)	初級文型復習・聴解 (高橋)
	B	----	聴解・会話・漢字 (三枝)	----	----

第 19 期 (2005 年 10 月コース 2005 年 10 月～2006 年 3 月)

4 か国から 5 名の留学生が参加。首都大学東京への進学予定者 2 名が含まれる。3 名を初級クラス、1 名を初中級クラス、1 名を中上級 (1 クラス) に配置。新たに e-learning クラスを導入。日本語教育担当教員は 5 名の専任教員、及び 4 名の非常勤講師 (北岡幹子、高橋美和子、田中久美子、福岡理恵子) である。

主な教材：『初級日本語』 (凡人社)、『毎日の聞きとり plus40』 (凡人社)、『中級の日本語』 (The Japan Times)、『Basic Kanji Book 基本漢字 500 (Vol.1, Vol.2)』 (凡人社)、『ニューアプローチ中級日本語 基礎編 改訂版』 (日本語研究社)、e-learning 教材『JPLANG』

第 19 期生名簿

氏名	性別	国籍	修了後配置先
Jaesuraparp, Suchada	F	タイ	経済学研究科
Mikled, Latipat	F	タイ	経済学研究科
Grigg-Saito, Emily Melia	F	アメリカ合衆国	首都大学東京
Dorikou, Leda	F	ギリシア	商学研究科
Hentati, Achraf	M	チュニジア	首都大学東京

第19期時間割

		I	II	III	IV
月	A	初級・文型語彙 (田中)	初級・文型語彙 (田中) e-learning	初級・会話聴解 (福岡)	初級・文字 (福岡)
	B	----	----	総合日本語 (西谷)	----
	C	----	----	中上級・翻訳による 作文 (鶴田)	----
火	A	初級・文型語彙 (北岡)	初級・文型語彙 (北岡) e-learning	初級・会話聴解 (高橋)	初級・文字 (高橋)
	B	初中級・読解・文法 (福岡)	初中級・会話 (福岡)	日本語選択・文章表 現入門 (三枝)	----
水	A	初級・表現作文 (西谷)	初級・表現作文 (西谷) e-learning	----	----
	B	----	日本語選択・社会科学の 基礎語彙 (石黒)	口頭表現 I (中川)	----
	C	----	専門日本語 (経済学分野) (庵)	----	----
木	A	初級・文型語彙 (北岡)	初級・文型語彙 (北岡) e-learning	異文化体験ゼミナール (柘植)	
	B	初中級・文型語彙 (福岡)	初中級・文型語彙 (福岡)		
金	A	初級・文型語彙 (田中)	初級・文型語彙 (田中) e-learning	初級・会話聴解 (高橋)	初級・文字 (高橋)
	B	初中級・翻訳による 作文 (鶴田)	初中級・聴解会話 (三枝)	都市工学語彙入門 (鶴田)	----

1.2 日本語・日本文化研修留学生プログラム

〈コースの概要〉

このコースは、文部科学省国費学部留学生のうちで日本語・日本文化を中心に学び、日本語力が上級レベルに達している者を対象としている。一橋大学では従来から年間5名程度の日本語日本文化研修留学生（以下、日研生と呼ぶ）を各学部が中心となって受け入れてきていたが、2004年10月からは、定員を10名と定め、日研生の教育をさらに充実するために、留学生センターが責任をもって指導に当たる体制を下記のように整えた。新しい体制の大きな柱として、修了レポートの作成指導を目標とする留学生センター開講科目「日研生ゼミナール」を新設した。研修生は、従来どおり学部ゼミナールに所属し、各自の希望にあわせて日本語科目、全学共通教育科目、学部教育科目を履修する。

1. 日本語教育部門

2004 年度日本語・日本文化研修留学生プログラム（2004 年 10 月 1 日～2005 年 9 月 30 日）

10 名の日研究生が以下の修了レポートを作成し、口頭プレゼンテーションを行った（2005 年 7 月 20 日）。留学生センター専任教員 3 名、及び 1 名の非常勤講師（福岡理恵子）が修了レポートの作成指導にあたった。内容についてはゼミナールの担当教員の指導を受けた。

2004 年度日本語・日本文化研修留学生名簿及び修了レポートタイトル

氏名	性別	国籍	修了レポート
Chen, Humphery Yonghui	M	シンガポール	グローバル化に向けた日系企業における外国人人材の役割
Kim, Jieun	F	大韓民国	江戸時代の歌舞伎
Lee, Joohyun	F	大韓民国	井原西鶴と江戸時代の出版
Dao, Phuong Anh	F	ベトナム	経済発展の明と暗
Yadamjav, Enkhbold	M	モンゴル	日本の少子化の原因と対策
Billimack, Daniel John	M	アメリカ合衆国	日本の弾道ミサイル防衛システム
Wild, Patrick	M	スイス	日本の包装文化
Turcsanyi, Tamas	M	ハンガリー	日本における難民の受け入れ－歴史・法律・生活の側面から見た難民問題の概要－
Maslak, Monika Magdalena	F	ポーランド	日本における引きこもり現象
Cao, Shuai	M	中国	日本の高度成長期における人々の生活環境

2005 年度日本語・日本文化研修留学生プログラム（2005 年 10 月 1 日～2006 年 9 月 30 日）

修了レポート作成の準備として、2004 年度日研究生の作成した修了レポートを読むほか、一橋論叢からもいくつかの論文をとりあげて日本語論文の構成及び表現等について学習した。2005 年 1 月末に修了レポートのテーマを決定し、留学生センターの専任教員 1 名が指導を担当した。

2005 年度日本語・日本文化研修留学生名簿及び指導教官

氏名	性別	国籍	所属学部	指導教員
Kim, Mina	F	大韓民国	社会学部	柏崎 雅代
Heo, Eun Haye	F	大韓民国	経済学部	今村 和宏（神岡太郎）
Sung, Na Young	F	大韓民国	社会学部	足羽 與志子
Kim, Hye Young	F	大韓民国	社会学部	木村 元
Park, Jin Ock	F	大韓民国	経済学部	今村 和宏（イ ヨンスク）
Yeung, Ching Ni	F	中国（香港）	社会学部	高田 一夫
Montgomery, Kenneth James	M	米国	商学部	松井 剛
Lee, Joshua Holl	M	米国	法学部	野林 健
Sagaeva, Akiko	F	チェコ	社会学部	深澤 英隆（高田一夫）
Zezulak, Lukasz	M	ポーランド	社会学部	吉田 裕（イ ヨンスク）

指導教員欄の（ ）内は所属する副ゼミ担当教員

2 全学共通教育科目としての日本語科目

全学共通教育科目として開講される日本語関係科目は多岐にわたる。2005年度は、年間のべ科目数で25、ゼメスター単位の延べコマ数で37コマ（1コマ=90分授業が週に1回で、2単位に相当）になる。以下に各科目の担当教員、コマ数、対象（特に明記しない限り留学生を対象とする）、内容、総時間数などを表にして記す。

2.1 学部留学生対象の日本語・日本事情科目

「日本語A」と「日本語B」は、学部1年の留学生を対象にした科目で、「一般日本事情Ⅰ」及び「一般日本事情Ⅱ」は、主に学部1・2年生の留学生を対象としている。この4科目が狭義の「日本語・日本事情科目」と呼ばれるものである。

表1：日本語・日本事情科目

科目 (担当教員)	コマ数	対象	授業内容・到達目標	時期・時間数
日本語A (鶴田、石黒)	2コマ /週	学部1年生	社会科学の勉学に必要な日本語能力を総合的に養成。特に教科書等を正確に読みこなし、講義を聞いて理解する訓練をする。	夏学期に開講 60時間
日本語B (西谷、三枝)	2コマ /週	上に同じ	「日本語A」に続いて高度な日本語能力を養成する。	冬学期に開講 60時間
一般日本事情Ⅰ (五味)	1コマ /週	学部1・2年生 交流学生、 日研生	広い視野から日本人、日本社会を捉え直し、日本を相対化するための作業を行う。	夏学期に開講 30時間
一般日本事情Ⅱ (五味)	1コマ /週	上に同じ	現代日本に焦点を絞り、現代日本社会の理解に役立つ歴史的な事柄を扱う。	冬学期に開講 30時間

2.2 全留学生対象の日本語科目

次の表2、表3に掲げる科目は、単位取得が可能な正規科目として、交流学生（交流協定校からの1年の短期留学生）、研究生（日本語研修コース修了生を含む）、日本語日本文化研究留学生（略称「日研生」）、学部1・2年生、大学院正規生など、全カテゴリーの留学生がそれぞれのレベルとニーズにあわせて選択、履修している。

クラス編成はプレースメント・テストの結果、学習者それぞれのニーズ等によって決められる。2005年度の非常勤講師は、梅岡巳香、中川まち子、金井勇人の3名であった。

1. 日本語教育部門

表2：選択科目

科目(担当教員)	コマ数	主な対象	授業内容・到達目標	時期・時間数
日本語選択・文章表現入門(三枝)	1コマ/週	交流学生、研究生(初中級)	自分の言いたいことをきちんとした日本語で書けるようにする。	冬学期開講 30時間
日本語選択・文章表現Ⅰ(夏：三枝、冬：今村)	1コマ/週	交流学生、研究生(中級)	社会科学系の論文を書く際に必要な基本的文型や表現・語彙を習得し、論理的な文章をふさわしい文体で書けるようにする。	夏・冬学期 並行開講 各30時間
日本語選択・文章表現Ⅱ(金井)	1コマ/週	交流学生、研究生(中級)	上記の練習に加え、説得力ある文章を書くための論文構成の技術を習得する。	夏・冬学期 並行開講 各30時間
日本語選択・文章表現Ⅲ(夏：三枝、冬：石黒)	1コマ/週	交流学生、研究生、学部1、2年生(上級)	文体、文章構成などについて、ともに議論することを通して、論文を書くのに必要な文章表現技術を身につける。	夏・冬学期 並行開講 各30時間
日本語選択・文法Ⅱ(夏：三枝、冬：庵)	1コマ/週	交流学生、研究生(上級)	中・上級レベルの文法力を確かなものにする。	夏・冬学期 並行開講 各30時間
日本語選択・口頭表現Ⅰ(中川)	1コマ/週	交流学生、研究生(中級)	大学生活で自然な日本語が使えるようにする。中級中期レベルの運用能力をつける。	夏・冬学期 並行開講 各30時間
日本語選択・口頭表現Ⅱ(梅岡)	1コマ/週	交流学生、研究生(中級)	大学生活で自然な日本語が使えるようにする。中級後期レベルの運用能力をつける。待遇表現を学ぶ。	夏・冬学期 並行開講 各30時間
日本語選択・口頭表現Ⅲ(金井)	1コマ/週	学部1、2年生、交流学生、日研究生、研究生(上級)	大学生活に必要なプレゼンテーション・スキル等、高度なコミュニケーション・スキルを養成する。	夏・冬学期 並行開講 各30時間
日本語選択・翻訳(鶴田)	1コマ/週	学部1、2年生、交流学生、日研究生、研究生(上級)	主に社会科学系の英語文献を日本語に翻訳することを通して日本語力を向上させる。	冬学期開講 30時間
日本語選択・中級読解Ⅰ(梅岡)	1コマ/週	交流学生、研究生(中級)	初級文法をふまえた上で長い文にふれる。語彙を増やす。	夏・冬学期 並行開講 各30時間
日本語選択・上級読解Ⅰ(中川)	1コマ/週	交流学生、日研究生、研究生(上級)	読解のストラテジーを確認しながら、内容を読みとる力をつける。	冬学期開講 30時間
日本語選択・上級読解Ⅱ(三枝)	1コマ/週	学部1、2年生、交流学生、日研究生、研究生(上級)	社会・人文科学分野の専門書を読み、その分野の基本概念や表現を習得する。	冬学期開講 30時間
日本語選択・速読(中川)	1コマ/週	主に学部1、2年生、交流学生、日研究生、(上級)	社会・人文科学分野の学術論文や新聞・雑誌などで、生の日本語を読み進む能力を養成する。	夏学期開講 30時間
日本語選択・社会科学の基礎語彙(夏：今村 冬：石黒)	1コマ/週	交流学生、研究生(中級)	社会科学の各分野の勉強・研究に必要な基礎語彙をテキストやプリントを用いて学ぶ。	夏・冬学期 並行開講 各30時間
日本語選択・近代文語文講読(石黒)	1コマ/週	日研究生、研究生(上級)	明治、大正期の文語文を読み、その時代の資料特有の文法や表現を学ぶ。	冬学期開講 30時間

2.3 学部生対象の日本語関係科目

「現代日本語論Ⅰ」「現代日本語論Ⅱ」は、留学生を含む、学部生一般を対象とした全学共通教育科目、「教養ゼミ」は、留学生を含む学部1、2年生を対象とした科目、「共通ゼミ」は、主に留学生を含む学部3、4年生を対象とした科目である。

表3：学部生対象の日本語関係科目

科目(担当教員)	コマ数	対象	授業内容・到達目標	時期・時間数
現代日本語論Ⅰ (石黒)	1コマ /週	留学生を含む 学部1,2年生	文法、表記、表現選択などを意識化、対象化して学ぶことによって、文章技術の向上を目指す。	夏学期開講 30時間
現代日本語論Ⅱ (石黒)	1コマ /週	留学生を含む 学部1,2年生	文章構成、文体、修辭技法などを意識化、対象化して学ぶことによって、文章技術の向上を目指す。	冬学期開講 30時間
教養ゼミ (庵)	1コマ /週	留学生を含む 学部1,2年生	日本語文法研究史上の著名な専門書を講読する。	冬学期開講 30時間
共通ゼミ (三枝)	1コマ /週	学部3,4年生 交流学生	日本語・日本文化に関する文献を講読する。	通年開講 60時間
共通ゼミ (今村)	1コマ /週	学部3,4年生 日研生	各自の専門分野における日本語の資料を比較検討する。および、レポート作成の指導をする。	通年開講 60時間
共通ゼミ (今村)	1コマ /週	学部3,4年生	日本語文法および日本語教育の文献を読み、討議する。	通年開講 60時間

3 学部教育科目としての日本語科目(留学生対象)

学部教育の枠組みでは、経済学部において「経済の日本語Ⅰ・Ⅱ」(夏学期、冬学期に各週1コマ)、法学部において「法の日本語」(夏学期週1コマ)、社会学部において「社会・人文の日本語Ⅰ・Ⅱ」(夏学期、冬学期に各週1コマ)がそれぞれ開講されている。いずれも各学部における留学生の専門日本語能力の向上を図るために開設されているが、他学部の学部生、研究生、交流学生、日研生も履修することができる。

表4：学部教育科目

科目(担当教員)	コマ数	対象	授業内容・到達目標	時期・時間数
経済の日本語Ⅰ (夏：今村、冬：西谷)	1コマ /週	学部1年生、 交流学生、日研生、 研究生(中級)	経済学を中心とする社会科学の分野で使われる語彙・表現をテキストを用いて学習するほか、日本経済新聞などの記事を講読し、テレビニュースを視聴する。	夏・冬学期 並行開講 各30時間
経済の日本語Ⅱ (今村)	1コマ /週	学部2年生、 交流学生、日研生、 研究生(上級)	主に経済学の分野で用いられる語彙・表現を学習する	夏・冬学期 並行開講 各30時間
法の日本語 (三枝)	1コマ /週	法学部の学生、 交流学生、研究生 (上級)	『判例で学ぶ日本の法律』(一橋大学留学生センター)をテキストに、法律に関する文章を読みこなす力をつける訓練をする。	夏学期開講 30時間
社会・人文の日本語Ⅰ (河野)	1コマ /週	学部2年生、 交流学生、日研生、 研究生(上級)	社会学専門知識について理解させる。	夏学期開講 30時間
社会・人文の日本語Ⅱ (河野)	1コマ /週	学部2年生、 交流学生、日研生、 研究生(上級)	「社会・人文の日本語Ⅰ」の内容をさらに深める。特に社会学専門知識について理解させる。	冬学期開講 30時間

4 補講としての日本語教育（春季・秋季集中日本語コース）

正規のカリキュラム外に開講されるもので、単位の認定は行われない。2005年度は9月と3月に3週間の集中日本語コースが開かれた。主な対象者は、センターの日本語研修生と交流学生、研究生である。交流学生については、4月、10月の各学期開始前に来日し、本コースに参加する機会を提供している。クラス編成、授業担当教員、内容、使用教材を以下に記す。

表5：2005年度秋季集中日本語コース（2005年9月5日～22日、全65時間）担当：石黒、中川

クラス（担当教員）	内容・目標	使用教材
Aクラス （田中、金井）	初級文法・漢字・語彙を確認しながら聴解力の向上を目指し、中級文法へと橋渡しする。	『ニューアプローチ中級日本語』 日本語研究社
Bクラス （梅岡、自見）	中級前期学習者の読解力・漢字運用力・聴解力・会話力の向上・語彙力強化を目指す。	『J-Bridge』 凡人社
Cクラス （高橋、北岡）	中級後期の学習者を対象に、アカデミックジャパニーズの運用力を高め、中級から上級への橋渡しをする。	『日本への招待』 新曜社
Dクラス （福原、麻生）	高度な内容の時事問題について読解、討論および文章作成を行う。	『朝日キーワード2005』 朝日新聞社
翻訳クラス （中川）	上級学習者が経済学・商学に関する英文を日本語に翻訳する力を伸ばす。	商学研究科の過去入学試験問題等

なお、翻訳クラスは9月2日～12日の7日間（35時間）であった。

表6：2005年度春季集中日本語コース（2006年2月28日～3月17日、全70時間）担当：今村、中川

クラス（担当教員）	内容・目標	使用教材
Aクラス （高橋、田中）	初級文法・漢字・語彙を確認しながら聴解力の向上を目指し、中級文法へと橋渡しする。	『ニューアプローチ中級日本語基礎編』 （本冊と練習帳） 日本語研究社
Bクラス （金井、梅岡）	初級文法・漢字・語彙を確認しながら聴解力の向上を目指し、中級文法へと橋渡しする。	『ニューアプローチ中上級日本語完成編』 日本語研究社
Cクラス （中川、北岡）	中級後期～上級前期学習者の聴解力・会話力の向上を目指す。	『日本の論点2005』 文藝春秋社 『専門分野の語彙と表現』 一橋大学留学生センター

表7：大学院科目

科目（担当教員）	コマ数	主な対象	授業内容・到達目標	時期・時間数
経済専門文献日本語 （今村）	1コマ ／週	経済学研究科の 大学院生・ 学部4年生	経済専門文献日本語の理解における落とし穴に目を向け、言語表現に現れる筆者の視点や立場を読みとる。同時に論文執筆、発表の技術も指導する。	夏・冬学期 並行開講 各30時間
総合社会科学日本事情 （河野）	1コマ ／週	社会学研究科の 修士1年生、 研究生	戦後の日本人論、日本文化論の著作を複数講読し、その内容を自分の身近な問題として検討する。授業参加者に自分なりの「日本人論」を考察してもらう。	夏学期開講 30時間
専門日本語表現技法Ⅰ （鶴田）	1コマ ／週	言語社会研究科の 学生	文章表現と口頭表現の基本的特徴を押しさえる。	夏学期開講 30時間
専門日本語表現技法Ⅱ （鶴田）	1コマ ／週	言語社会研究科の 学生	学術的文章の特徴に習熟するための訓練を行う。	冬学期開講 30時間
日本研究Ⅰ （三枝）	1コマ ／週	国際・公共政策 大学院の学生	明治以降の著名な日本思想・日本社会論についての文献を講読し、今後の研究の基礎固めをする。	夏学期開講 30時間

（三枝令子、鶴田庸子、西谷まり）